

平成29年度岡山県地方独立行政法人評価委員会（第2回）の議事録

- 1 日 時 平成29年4月26日（水）13:00～14:30
- 2 場 所 ピュアリティまきび 2階「千鳥」（岡山市北区下石井2-6-41）
- 3 出席委員 萩原委員長、小田委員、田中委員
- 4 議 事
 - (1) 公立大学法人岡山県立大学 平成29年度 年度計画について
 - (2) 公立大学法人岡山県立大学 役員に対する報酬の支給基準の変更について

【要 旨】

- 4 議 事
 - (1) 公立大学法人岡山県立大学 平成29年度 年度計画について
 - ・公立大学法人岡山県立大学より説明

委員発言要旨	大学・事務局発言要旨
<p>ディプロマ、カリキュラム、アドミッションの3つのポリシーが、学生たちに十分伝わっているのか。</p> <p>この3つのポリシーの言葉は、分かりやすく日本語でというわけにはいかないのか。</p>	<p>3つのポリシーは、文部科学省から指示があったもので、アドミッション・ポリシーは、どんな学生を受け入れるか、その方針。カリキュラム・ポリシーは、それを受けて、大学でどのような人材を育成するか、教育カリキュラムを明確にする。それから、ディプロマ・ポリシーは、本学の卒業生はどんな人材を送り出すかというもので、これらを一体的に策定かつ明確な内容にするよう、約3年前に文科省より指示がありました。今、かなりの大学が実施しています。</p> <p>本学は、地域で活躍する人材を育成することを一つの目標にしています。2つ目は、地域の産業活性化、振興、地域づくり。3つ目は、地域における学術・文化の向上、及びグローバル化を挙げています。それに対応する教育システムができていくかどうか。そういう意味で、現在、3つ学部がありますが、それぞれの学部の専門教育が本学の目標に合致しているかどうかをこの一年余りで吟味し、それに基づき、この3つのポリシーをしっかりと立てようと考えております。</p> <p>今、国全体で大学教育で特に強化が図られている一つに、学生の学習成果をきちんと測り、それに基づいて、教育の方法や内容を改善していくとしています。これをPDCAサイクルで取り組む基礎になるものが、3つのポリシーです。</p> <p>このポリシーは、この4月から法令で公表が正式に義務化されました。ポリシーで具体的な目標・指標を掲げ、どこまで達成できているかということ測っていく。とりわけ、学生の学びについてしっかりと測り、しっかりと改善の取り組みをやってくださいということが、基本的には国の意向であり、本学も取り組んでいるところです。</p> <p>日本語もあり、ディプロマ・ポリシーは、「学位授与の方針」です。例えば学士課程ですと、学部教育を卒業した学生には学士の称号が与えられますが、与えるにふさわしい、本学ではこういう要件を備えた学生だということになります。</p>

岡山県立大学はこういう大学だというブランド、こういう特徴があり、ぜひこの県立大学へ入りたいというような、大学の文化、独自の理念はあるか。

それから、カリキュラム・ポリシーは、具体的にどういう教育課程で実施していくかの方針を示すもので、「教育課程の編成方針」です。

アドミッション・ポリシーは、「入学者の受け入れ方針」です。どういう学生、高校生等に受験してもらいたいのか。それを、本学の人材育成の方針を明らかにしながら伝える。今はそれと併せ、どういう入試を実施し、入試ではどういう評価をするのかということまでを明らかにしなさいと、具体化されています。これに基づいて本学の教育の成果を、学習成果を中心に測っていくことになります。

開学時に「人間尊重と福祉の増進」を建学の精神としています。これは、当時の県政の目標だったものです。平成19年に独立行政法人化するときには、教育研究理念として、人間・社会・自然の関係性を重視し実学を創造し、そして地域貢献するという理念を打ち立てています。

ただ、本当にこれをやっているかどうかは、今問われていると思っています。先ほど大学の目標を言いましたが、地域で活躍する人材を育成する、それから産業の振興、地域づくり、それから学術・文化の向上、グローバル化。これらを目標にしました。「地域で活躍」、これをキーワードにしたいと思っています。

本学は、保健福祉学部、情報工学部、デザイン学部という3学部があり、保健福祉学部には、短期大学のときに食物学科があり、栄養学科をつくりました。それから、看護学科、保健福祉学科をつくりました。

それから、開学の頃、これからは情報化時代ということで情報工学部をつくりました。それから、デザイン、これは全く新しい学部です。

看護学科は、基本的には看護師、医療です。栄養学科は食育や管理栄養士。保健福祉学科は、保健福祉士、社会福祉士、保育士、介護福祉士、これらを養成するという明確なものがあります。情報工学部は、情報工学の地域産業を支援する。

デザイン学部に関しては、情報工学も実はそういうところがありますが、卒業生の県内への定着をもっと上げていきたいというときに、「教育改革」「域学連携」「産学連携」、とりわけ産学連携を頑張って、地域産業とのパイプをしっかりとしたものにし、技術支援などを行いながら、長期インターンシップ等により、学生が地域の産業に魅力を感じ定着していくこともあるし、地域産業自体も、新たな情報やデザインなどの要素を取り込みながら発展していく方向に、本学も協力していく。これは、かなり地道で時間がかかる活動ですが、情報工学・デザインというのは全国的、あるいはグローバルといってもいい分野ですが、地域の中で発展的に生かしていける方策を考えていかないといけない。地域で生かす情報工学、デザイ

県内への就職の割合は、どういう状況か。地元企業は、地元で就職してほしいと思っているが。

国家試験の合格率は、目標をしっかりとっており、よいことだ。同じように、県内の就職率、県内に残る学生を何割にするという目標を持つべきと考えるがどうか。

5月29日のOPUフォーラムだが、チラシ、パンフレットを企業の就職担当にダイレクトメールするとか、もっと広く広報し、企業を積極的にキャンパスへ呼び込むような取り組みをしてはどうか。

TOEIC500点以上の最終年度の目標が100人に対し、実情では15名が500点以上を取っている。100名という目標に対し、非常に少ない。現状ではとても100名には届かないと思うが、何か工夫が必要ではないか。

例えば、入試で英語の能力の高い人を優先的に取るとか、何か工夫しないと、この100名という目標には届かないと考えるがどうか。

ンというのが、本学のブランド力を高める上で、重要な要素と考えています。

28年度、今年の2月末にまとめている数字ですが、大学においては、保健福祉学部で県内の就職率が67.7%、情報工学部で54.7%、デザイン学部は県内になかなか受け皿が少ないこともあり、低く27.9%、大学全体で54.3%という状況です。県外から本学へ来た学生が、そのまま就職したということも、大きな割合ではないがあります。県内定着を目指していきます。

そのためにCOC+事業に取り組んでいます。COC+事業は、地元定着率を10%アップするという目標があります。保健福祉学部は10%はなかなか難しいが、情報とデザインはそれを目標にしています。

定着率を上げるために、仕掛けが要るということで、産業振興、雇用マッチングによって上げていこうとしています。そのために、インターンシップを充実していき、学生ができるだけ地元の企業をよく知り、就職する方策を考えています。

各企業には、産学官連携推進センターのコーディネーターから関連の担当の方へ、郵送なりメールで連絡しています。

この23年度までの平均15人よりは、今は全員受験というかたちをとり、伸びています。その実績から見て、今年度の目標50人は、達成可能性がある数字と考えています。

今、英語に関しては、イングリッシュ・ラーニング・プログラムで、全面的に英語の授業の内容も刷新し、2年目に入っています。そういう中で、語学教育推進室で学生の課外の、インターネットも活用した実習の支援を行っています。それに加え、語学文化研修など、国際交流センターが支援している活動にも、参加学生の数は徐々に増えています。まずは英語に対するアレルギーをなくそうというのが当初の意図でしたが、かなり改善されてきています。そういう中で、国際交流センターの活動と語学教育推進室の活動を基本にやっけていき、また、英語教員も、TOEICの成績が伸び悩む原因は何か、分析しながら授業の改善に取り組んでおり、目標数値に今年度は届くという期待をしています。

ただし、委員が言われるように、これをあと2年で倍に伸ばすのは大丈夫かというところは、確

<p>今後、どの大学も生き残りをかけて必死と思うので、産学連携をやっていくと思うが、個性がある大学にしていき、岡山県立大学としてのブランドをさらに構築していき、岡山には県立大学という素晴らしい大学がある、あそこは、こういうことが学べるというような、ますますいい大学にしていってもらいたい。</p> <p>一昨日、津山高専であったシンポジウムに参加したが、高専は5年制で、3年から4年へ上がるときに相当厳しく落第させられると聞いた。県立大学では、留年とか落第とかはどの程度の厳しさか。単位を取る厳しさというのは、いかがなものか。</p>	<p>かに言われる通りであり、いろいろな活動を考えています。</p> <p>学部ごとに見ますと、情報はかなり厳しく、留年も結構出ています。保健福祉学部、デザイン学部は、それほど留年はいません。</p> <p>ディプロマ・ポリシーがあるように、単位は学位授与のためのものであるという基本精神があります。ポリシーに合致するために、単位をしっかりと取っているかどうか、その見極めはますますこれから厳しくなると思っています。そのことは、同時に留年を増やすということになると思います。</p> <p>本学の強みを考えた時、どこを強くするのか、保健福祉学部は、専門家を養成し県内に確保できていて、いいと思うが、情報工学部は、岡山県内の中小企業は機械メーカーが多く、それをどう今のAIとかITにリンクしたかたちで支援するかを、大学自体がどう考えていくか。そこへ、デザインをもっと組み合わせれば特徴になると思います。今まで、ベクトルがはっきりしていなかった面もあるので、地域を活性化すべく、ベクトルをそろえたいと思っています。</p>
---	---

(2) 公立大学法人岡山県立大学 役員に対する報酬の支給基準の変更について
・事務局より説明

委員発言要旨	大学・事務局発言要旨
<p>理事長は県知事等に準ずるのか。</p> <p>「知事等」の「等」というのは、どこまでを言うのか。</p> <p>よろしいか。 (「よろしい」の声)</p> <p>それでは、「公立大学法人岡山県立大学 役員に対する報酬の支給基準の変更について」は、地方独立行政法人法第56条の規定により準用される、同法第49条第2項の規定に基づく評価委員会の意見は「特になし」としたいと考えますが、各委員よろしいか。</p> <p>各委員 異議なし。</p>	<p>そうです。</p> <p>知事、副知事、公営企業管理者、教育長、それから人事委員会の常勤の委員と監査委員の常勤の委員が入ります。</p>